

TPP反対・脱原発

ふるさとに根ざした震災からの再生を



毛原の集落とビオトープ池



ふるさと再生京都懇談会

〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30-2 ラポール京都5F(京都自治労連気付)

HP. <http://hurusato-kyoto.jimdo.com> e-mail. hurusatosaisei@yahoo.co.jp TEL. 075-801-8186 FAX. 075-801-3482 事務局長 山村 隆

私たちを育んできたふるさと
つぎを追い……
小鮒釣りし……
暮らしを支えるふるさと
震災からも原発からもたちあがる
ふるさとの人々の力を信じて



ふるさと再生京都懇談会からのアピール

私たちふるさと再生を願うものは、東日本大震災の被害の大きさ、福島第1原子力発電所の崩壊による地域の消失に深く心を痛めています。被災された方、避難された方に心からのお見舞いを申し上げます。

超巨大地震と大津波は東日本太平洋側の広範な海岸部を直撃し、多くの命を奪いました。

国や財界の一部は今回の大災害を好機に非効率な産業から効率性の高い産業への転換が必要と主張しています。そのために「経済特区」や、「自治体のさらなる広域化」「道州制」を求めています。そして、「例外無き自由化を目指す」環太平洋経済連携協定(TPP)への参加に執念を燃やしています。身近な暮らしや産業を失って、地域が元気になるのでしょうか。

TPPは日本の農業・林業・漁業を破滅に追い込み、食料の自給を著しく困難にします。中小の製造業、小売商業の存立基盤を掘り崩し、壊滅させます。医療、介護など人の命にかかわるサービスを営利重視のそれに変えていきます。その結果、日本経済の大本は破壊しつくされ、国民の生活条件は大きく悪化していきます。地域の経済は破綻し、国土の保全や地域社会の維持も困難になっていきます。ふるさとを守る願いも、震災からの再生の願いも踏みにじるものです。

一方、福島第1原子力発電所の崩壊は「原発神話」に踊らされた人災・政治災害です。その結果、広範な地域で放射能汚染が広がり、風評被害も広がっています。

老朽化し、活断層の上に立地する福井原発に隣接する京都府民にとっては決して他人ごとではありません。

この極限ともいえる状況を解消する道は日本のエネルギー政策の転換です。私たちは、原発の全廃と、安全で環境に負担をかけない再生可能な自然エネルギー供給を求めます。

地方自治体がそれぞれのエネルギー政策を持ち、バイオマスや風力水力など地域でのエネルギー供給で、持続可能な資源循環型の産業と暮らしを実現するよう要求します。

私たちは一人ひとりの人が大事にされ、それぞれの地域が特徴と資源を生かして発展していくことを願い、TPPへの参加に強く反対します。

私たちは求めます。原子力頼みのエネルギー政策の転換を、効率性だけを主導理念とするグローバル経済体制からの脱出を、地域経済の自立的発展の促進を。

2011年5月21日

ふるさと再生京都懇談会

「ふるさと再生京都懇談会」は以上のアピールを発表しましたので紹介します。



ふるさと再生京都懇談会の活動

地方構造改革「三位一体」の改革が進む中で、地方の寂れ・荒廃は深刻な状況になってきました。地域の経済を元気にさせ、住み続けられるまち、ふるさとを再生するために、京都のあちこちで、人々がつながりあってがんばっています。

そんな人々の交流の場をめざして、ふるさと再生京都懇談会は設立されました。

この5月には与謝野町で懇談会を開催。地元の伝統的産業や技術・人材・自然環境を生かし、産業を発展させようとする町の産業政策と、地元の力強い住民の活動で元気なふるさとを実現されていることを体感してきました。

各地のがんばりに学び、人と人とのつながりを広げて、ふるさと京都の再生を願って活動し発信していきます。

※ 年会費1000円でどなたでもお入りいただけます。



TPP反対・脱原発